

岩手県感染症週報

平成25年第42週(10月14日～10月20日)

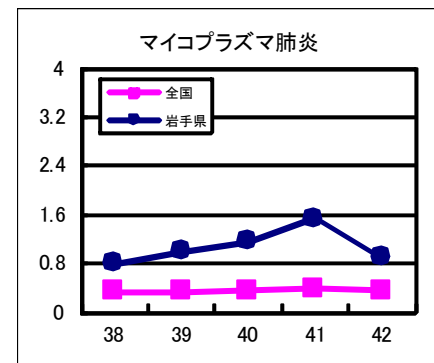
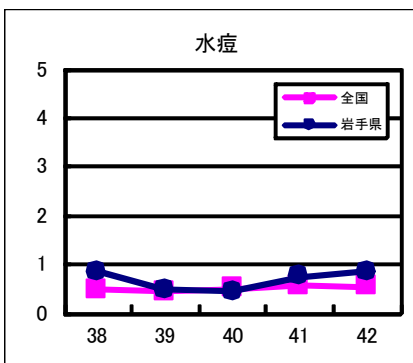
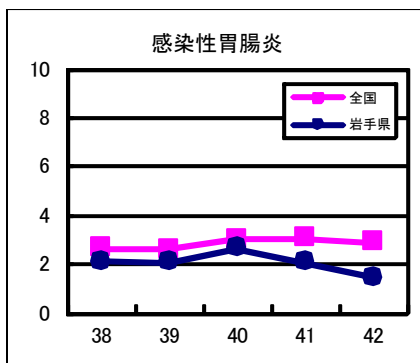
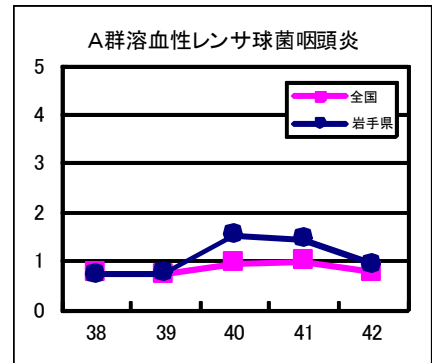
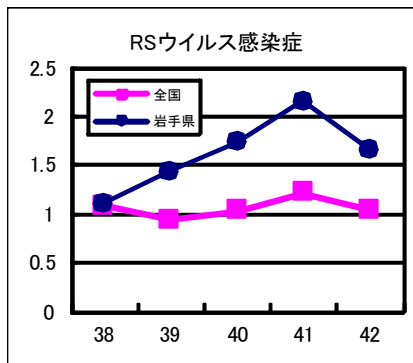
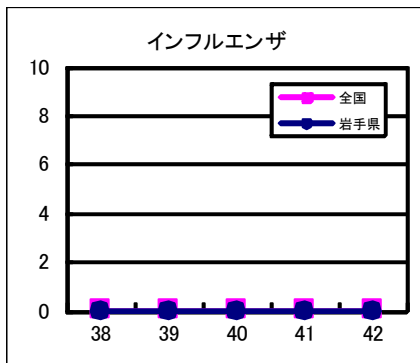
岩手県感染症情報センター

第42週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・結核の患者の報告が、8例(潜在性結核2例)ありました。
- 3 類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症の患者の報告が1例ありました。
- 4 類感染症 ・レジオネラ症は、盛岡市および釜石地区からそれぞれ1例ずつ報告がありました。本疾患は、他の細菌性の肺炎と区別が困難で、適切な抗菌薬の投与がない場合、急速に症状が悪化する例があるので注意が必要です。
- 5 類感染症 (全数把握対象疾患)
 - ・アメーバ赤痢の患者の報告が、盛岡市から1例ありました。
 - ・梅毒の患者の報告が、盛岡市から1例ありました。
 - ・侵襲性肺炎球菌感染症の患者の報告が、釜石地区から1例ありました。
- 5 類感染症 (定点把握対象疾患)
 - ・RSウイルス感染症は、前週より減少しましたが、過去5年間の同時期と比較してかなり多くなっています。地区別では、中部および奥州地区で報告数が多くなっています。本疾患は、生後数週間から数ヶ月の乳児が初めてRSウイルスに感染した場合、細気管支炎や肺炎など重症になることがあるので注意が必要です。
 - ・マイコプラズマ肺炎は、この週は前週より減少しましたが、例年、秋から冬にかけて報告数が多くなるので注意が必要です。本疾患は、マイコプラズマという小型の細菌を原因とする呼吸器感染症で、長く続く乾いた咳が特徴です。適切な抗菌薬治療が必要です。

最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

※第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾病となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		38	39	40	41	42		
インフルエンザ	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.02	0.02	0.03	0.04	0.02		
RSウイルス感染症	岩手県	1.1	1.43	1.73	2.15	1.65	→	☆
	全国	1.08	0.94	1.03	1.21	1.04		
咽頭結膜熱	岩手県	0.03	0.05	0	0.08	0.05	→	
	全国	0.39	0.29	0.29	0.31	0.25		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	0.73	0.75	1.53	1.45	0.93	→	☆
	全国	0.74	0.72	0.96	0.99	0.76		
感染性胃腸炎	岩手県	2.1	2.05	2.65	2.08	1.45	→	☆
	全国	2.66	2.62	3	3.07	2.9		
水痘	岩手県	0.85	0.48	0.45	0.75	0.85	→	☆
	全国	0.49	0.44	0.51	0.57	0.55		
手足口病	岩手県	5.35	3.25	3.1	2.18	1.4	↘	☆
	全国	2.94	1.87	1.71	1.67	1.29		
伝染性紅斑	岩手県	0.2	0.18	0.28	0.08	0.08	→	
	全国	0.04	0.04	0.04	0.05	0.03		
突発性発疹	岩手県	0.5	0.53	0.4	0.35	0.48	→	☆
	全国	0.55	0.48	0.59	0.6	0.49		
百日咳	岩手県	0	0	0	0	0.03	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		
ヘルパンギーナ	岩手県	1.63	0.75	0.48	0.2	0.23	→	☆
	全国	0.66	0.4	0.33	0.28	0.19		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.55	0.4	0.53	0.48	0.38	→	☆
	全国	0.23	0.23	0.23	0.23	0.22		
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0	0.01		
流行性角結膜炎	岩手県	0.29	0.29	0.14	0.36	0.21	→	☆
	全国	0.65	0.61	0.54	0.48	0.47		
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0.05	0.05	0	0	→	
	全国	0.01	0.02	0.02	0.01	0.03		
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0.05	0	0	→	
	全国	0.07	0.06	0.04	0.06	0.05		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.79	1	1.16	1.53	0.89	↘	☆
	全国	0.34	0.33	0.36	0.39	0.35		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.02	0.02	0.03	0.03	0.02		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県					0		
	全国					0		
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	0	0	0	0	0		
	全国	4	4	3	2			

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) が
10週より対象疾患になりました。

(患者発生数)

	疾病名	(週) 岩手県					全国		
		38	39	40	41	42	累計	42	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	1
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者数	4 (1)	2 (1)	6 (2)	5 (1)	8 (2)	178 (57)	340	21320
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	2
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	0	120
	腸管出血性大腸菌感染症	5	5	3	2	1	99	63	3450
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	3	58
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	42
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	3	99
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	1	108
	エキノкокクス症	0	0	0	0	0	0	0	12
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	8
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	5
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	3
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	0	40
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	11
	つつが虫病	0	0	0	0	0	6	5	152
	デング熱	0	0	0	0	0	0	7	213
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	3	123
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	1	8
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	2
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	マラリア	0	0	0	0	0	0	2	40
	野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ライム病	0	0	0	0	0	0	0	17
	リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	4
	レジオネラ症	1	1	0	0	2	12	20	880
	レプトスピラ症	1	0	0	0	0	1	1	20
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

※侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症が第14週より、鳥インフルエンザ (H7N9) が第19週より届出対象疾患となりました。

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		38	39	40	41	42		42	累計
五類感染症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	1	3	11	832
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	0	3	229
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	3	1	292
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	1	17
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	1	3	171
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	1	0	162
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	1	14	1238
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	69
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	1	1	83
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	17
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	1	2	9	626
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	16
	梅毒	0	0	0	0	1	2	20	977
	破傷風	0	0	0	0	0	1	1	109
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	46
	風しん	0	0	0	0	0	8	20	14201
	麻しん	0	0	0	0	0	0	2	209
指定	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0

今注目の感染症

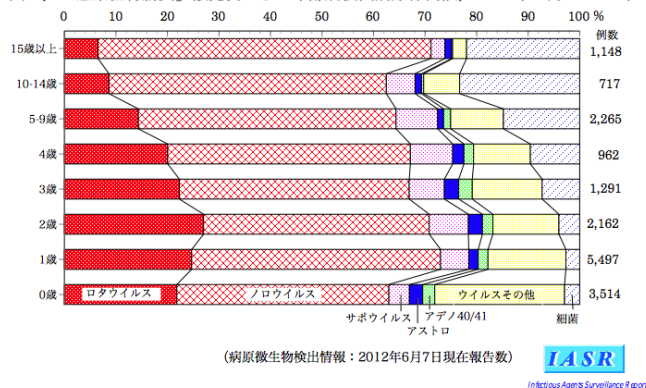
ロタウイルスによる感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は多種多様な原因病原体による症候群名です。主要な原因病原体のひとつにロタウイルスがあります。

(図)

ロタウイルスによる胃腸炎は主に乳幼児が罹患し、潜伏期は2日間で、通常は発熱 (1/3の小児が39℃以上の発熱を認める) と嘔吐から始まり24～48時間後に水様便を認めますが、1～2週間で自然に治癒します。他のウイルスによる胃腸炎より症状が重いことが多いと言われてお

図. 「感染性胃腸炎」散発例からの年齢別検出病原体内訳, 2005年9月～2012年5月



り、また重症な合併症として急性脳炎や多臓器不全が報告されています。特異的な治療法はなく対症療法が主体です。

ロタウイルスによる感染性胃腸炎は再感染します。初回感染時の症状が最も重く、2回目以降の感染は症状が軽くなります。ロタウイルスワクチンはこの性質を応用したもので、重症化を予防することが目的です。

ロタウイルスの感染経路は、経口感染ですので、予防には患者の汚物の適切な処理や手洗いの徹底等が有効です。また、ワクチンによる予防も重要性が高くなっています。

10月14日より、ロタウイルスによる感染性胃腸炎の感染症法における取り扱いが変わります。届出基準は [こちら](#)

参考 国立感染症研究「ロタウイルス感染性胃腸炎とは」
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/3377-rota-intro.html>

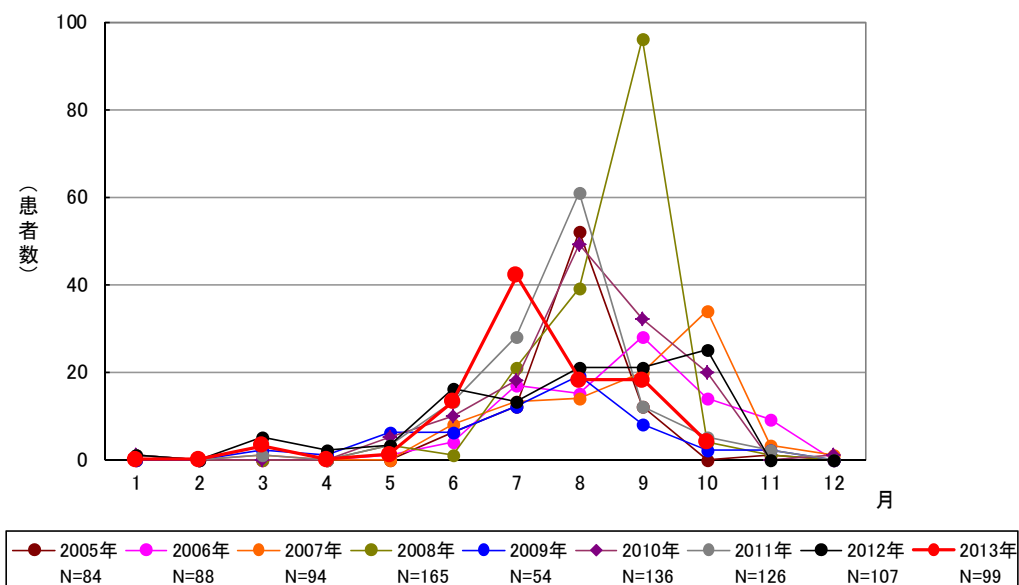
今注目の感染症 (つづき)

腸管出血性大腸菌感染症

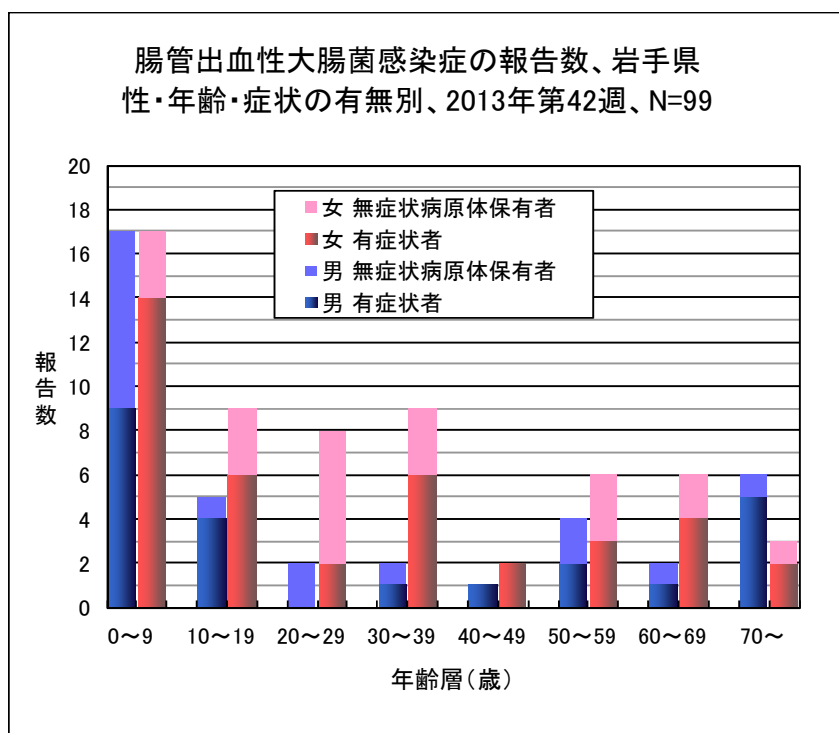
腸管出血性大腸菌感染症は、第42週までに99例の患者が報告されています。原因となった大腸菌はO157が47例、O26が38例、O111が4例、その他が10例となっています。年齢層別では、0～9歳(34名)、10～19歳(14名)、30～39歳(11名)、20～29歳(10名)、50～59歳(10名)、70歳以上(9名)の順に多くなっています。

岩手県では、6月から10月に発生数が多く、予防には、食品を十分加熱するなど食中毒対策を徹底するとともに、ヒトからヒトへの二次感染を予防するために、石けんと流水を用いた手洗いの励行が重要です。

腸管出血性大腸菌感染症 月別患者数
(岩手県2005年～2013年)



腸管出血性大腸菌感染症の報告数、岩手県
性・年齢・症状の有無別、2013年第42週、N=99



今注目の感染症 (つづき)

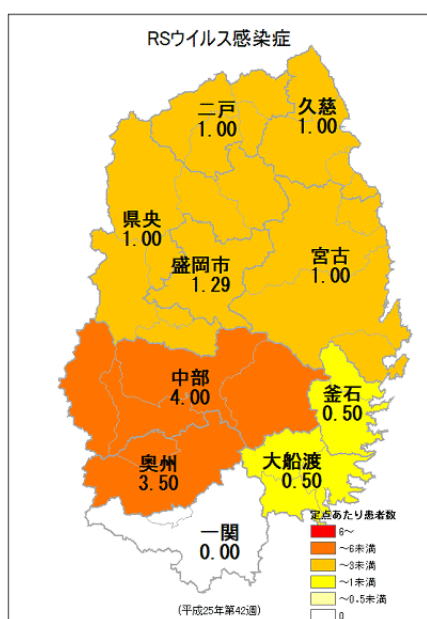
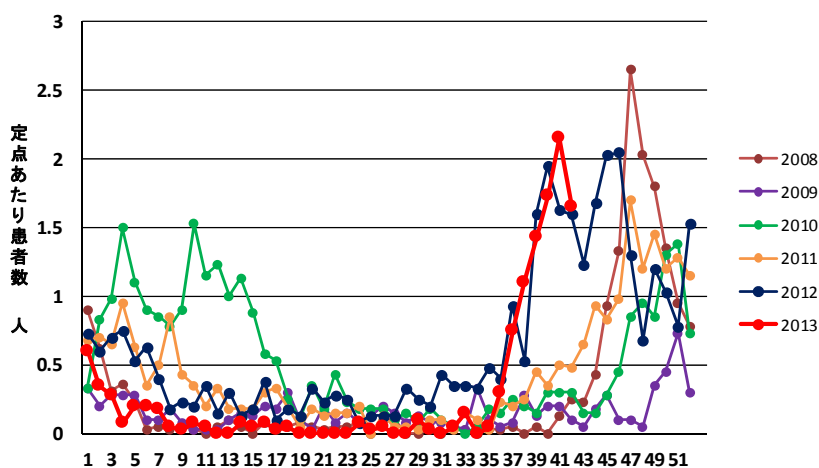
RSウイルス感染症

RSウイルス感染症は、RSウイルス(respiratory syncytial virus)の感染によって発症する呼吸器感染症です。終生免疫は獲得されず、年齢を問わず生涯にわたり顕性感染を繰り返し、生後1歳までに半数以上の児が、2歳までにほぼ100%の児が初感染を受けるとされています。特に、生後数週間～数ヶ月間の時期においては、母体からの移行抗体があるにもかかわらず、肺炎や細気管支炎など重症化する場合があります。無呼吸、ADH分泌異常症候群、急性脳炎なども注意すべき合併症です。

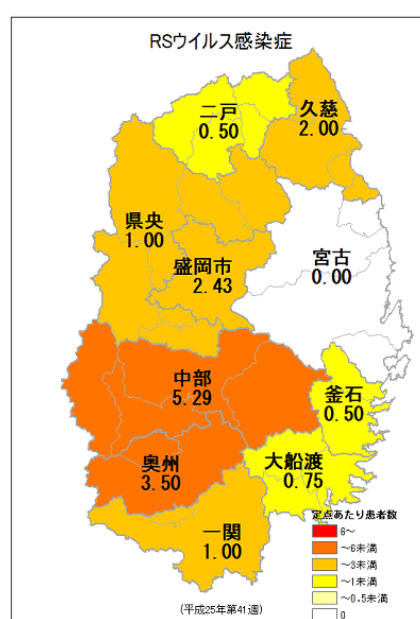
例年、冬期に発生のピークが見られていますが、昨年は7月頃から増加傾向がみられ、9月下旬と11月初旬に2つのピークがありました。今年は9月中旬より急増しています。今後の発生の動向に注意が必要です。

RSウイルス感染症に関するQ&A http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html

RSウイルス感染症週別患者報告数岩手県(2009～2013)



第42週



第41週

病原体検出情報

- ・この週には病原体検出情報はありません。

集団感染情報

- ・この週には集団感染情報はありません。

医療機関からの情報

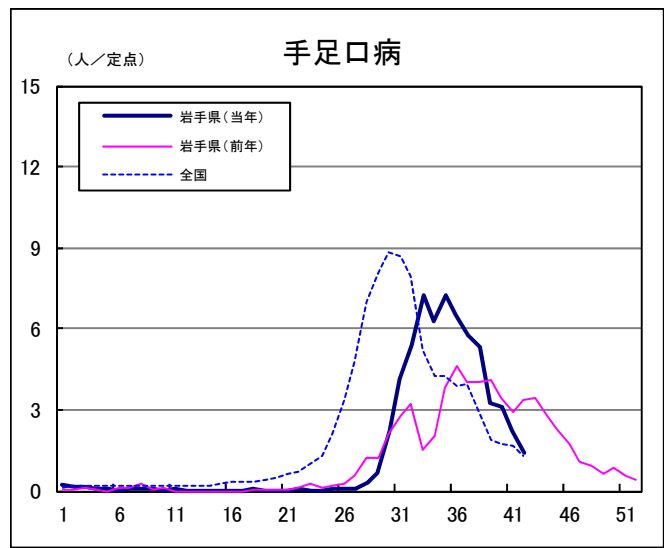
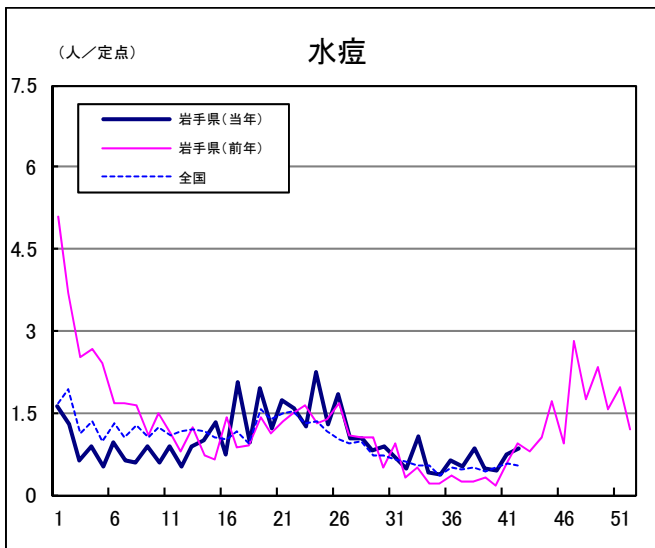
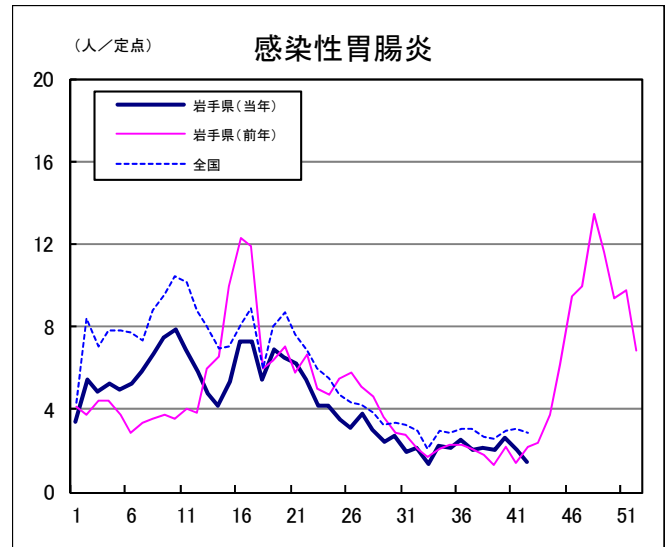
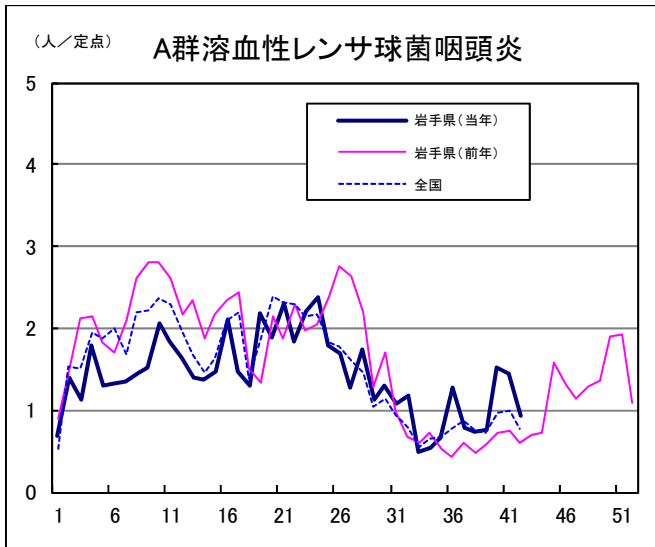
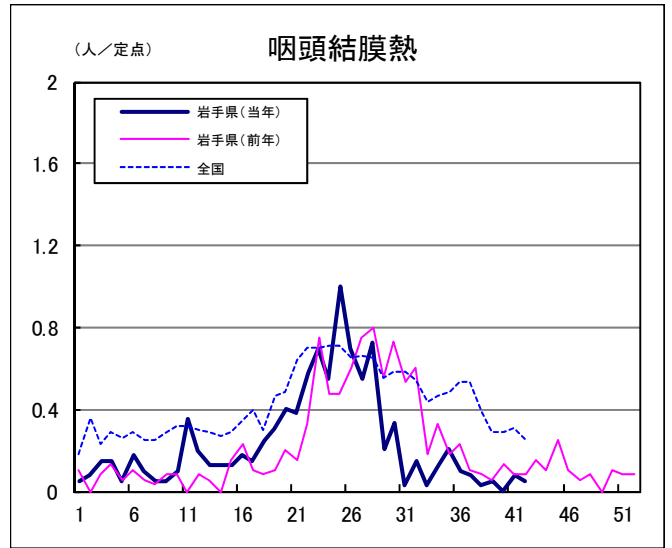
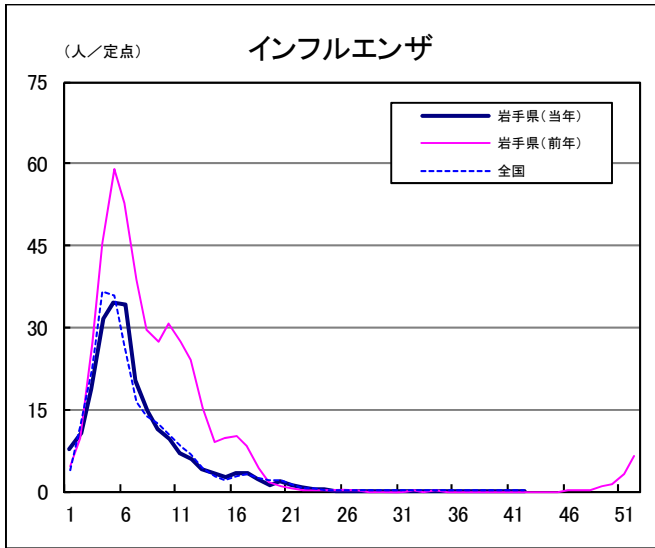
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

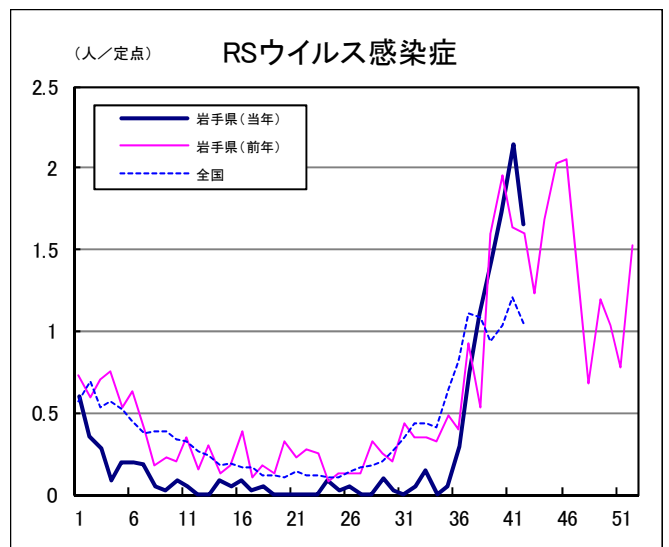
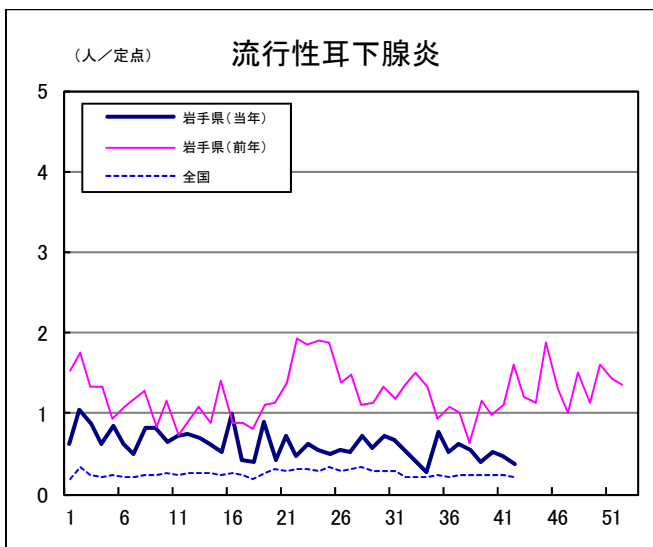
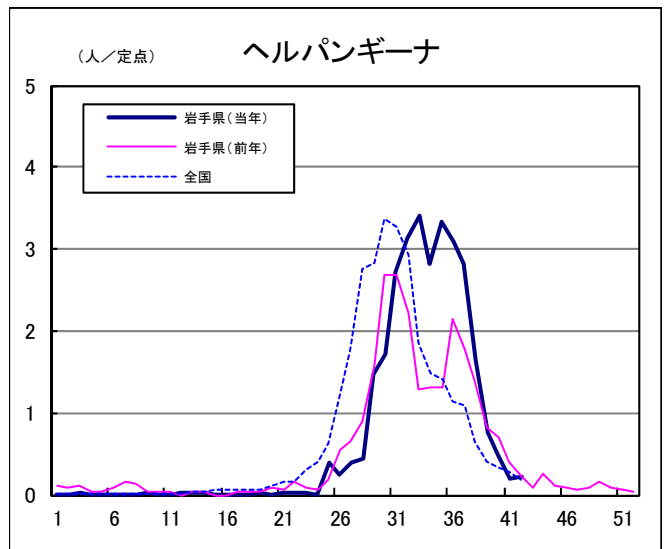
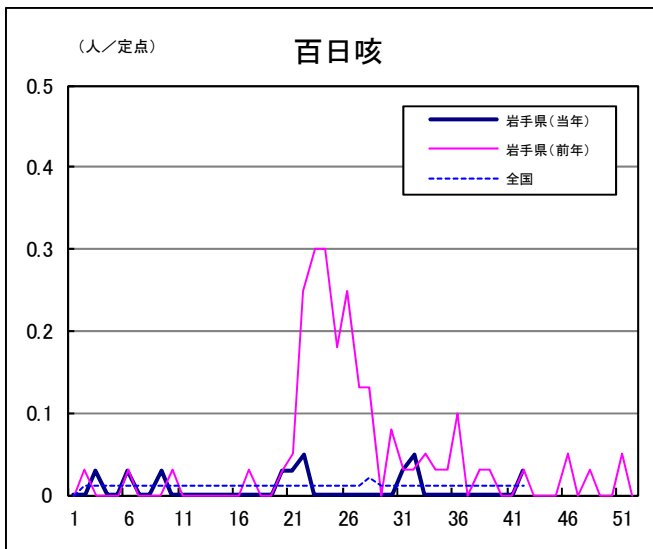
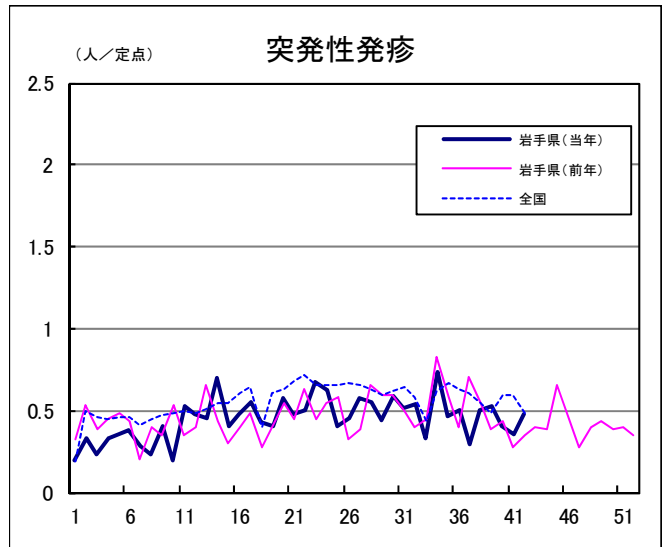
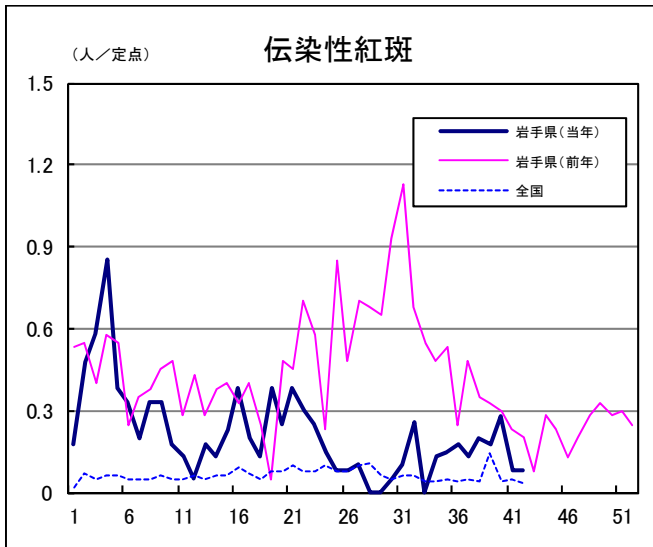
Q & A

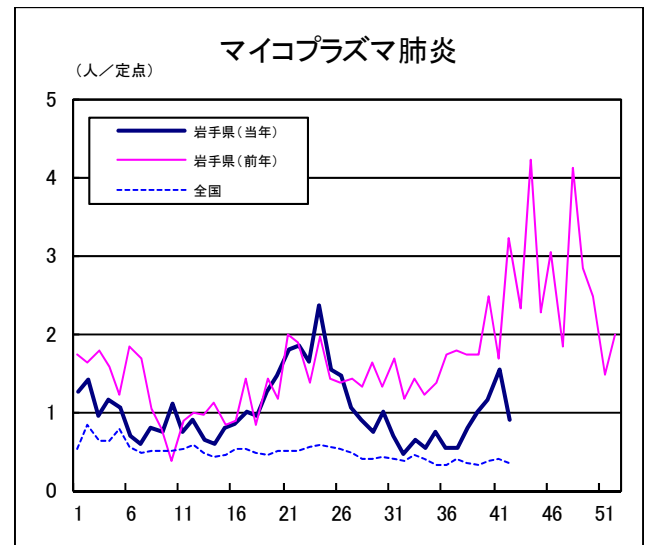
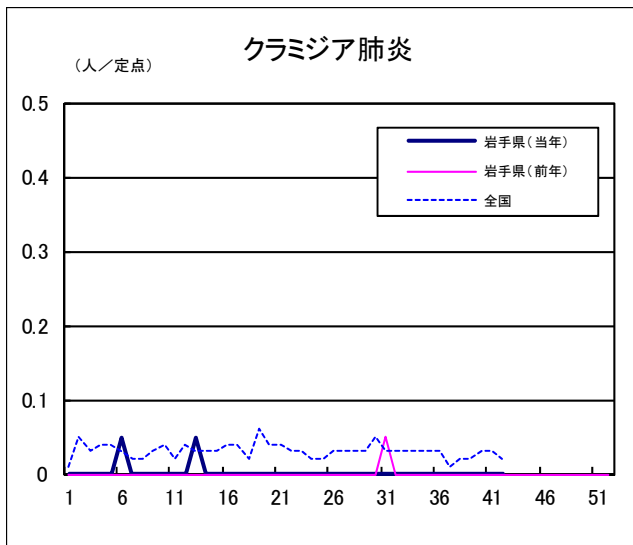
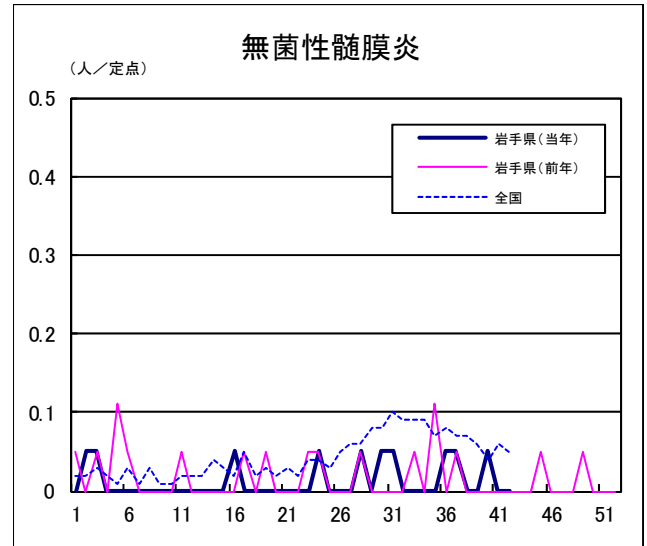
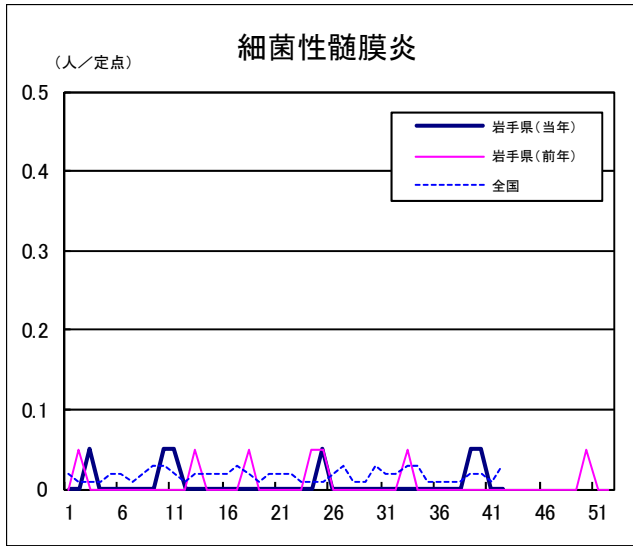
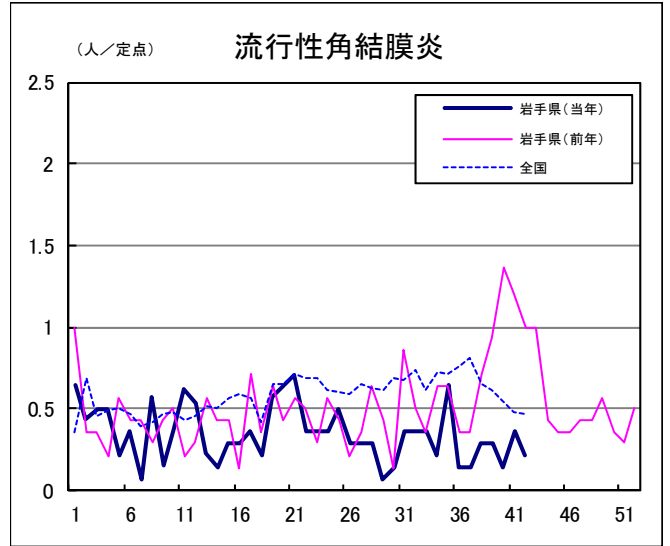
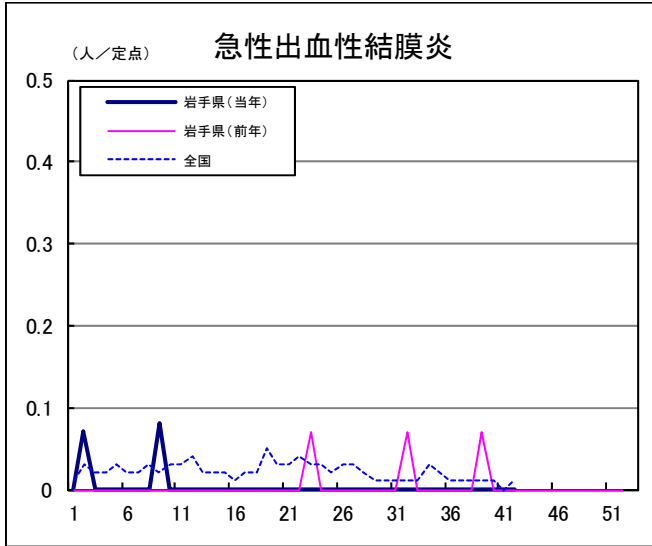
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
（平成24年2月20日より住居表示が変更となりました。）
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別 インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県	64	40	14	19
盛岡市	11	7	3	5
県央	7	5	2	0
中部	12	7	2	4
奥州	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	6	4	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成25年第42週 平成25年10月25日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

(平成24年2月20日より住居表示が変更となりました。)

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/info.rbz?nd=345&ik=3&pnp=17&pnp=60&pnp=345>

<岩手県保健福祉部医療政策室>